

橋梁・トンネルの保全更新に市内の「産」・「学」・「官」が連携して取り組みます

～連携協力協定の締結～

橋梁やトンネル等の道路インフラの老朽化が急速に進行している中、限られた財源で維持管理を行うためには、様々な視点や新しい技術を積極的に取り入れる対応が必要となっています。

道路インフラ老朽化の危機に対して、横浜市内の「産」「学」「官」が一致団結して立ち向かうため、横浜建設業協会、横浜市建設コンサルタント協会、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院及び横浜市道路局の四者で連携協力協定を締結します。

1 協定締結式の概要

(1) 日時

平成 27 年 10 月 2 日(金) 午前 10 時 00 分から 1 時間程度

(2) 場所

横浜市 市庁舎 2 階 応接室(中区港町 1-1)

(3) 参加者(協定締結者)

「産」 一般社団法人横浜建設業協会 会長 土志田 領司
一般社団法人横浜市建設コンサルタント協会 会長 山本 実
「学」 横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院長 佐土原 聡
「官」 横浜市道路局 道路局長 手塚 文雄

横浜建設業協会広報担当の
”横浜ケンジロー”です。
取材される場合は直接会場
にお越し下さい。



© 横浜建設業協会 / INspace

2 協定の概要

(1) 名称

横浜市内の道路橋及びトンネルにおける保全更新技術に関する「産」・「学」・「官」連携協力協定

(2) 目的

市内の建設業、建設コンサルタント業及び大学研究活動の発展を通じて、横浜市民の安心・安全を将来に渡って確保すること。

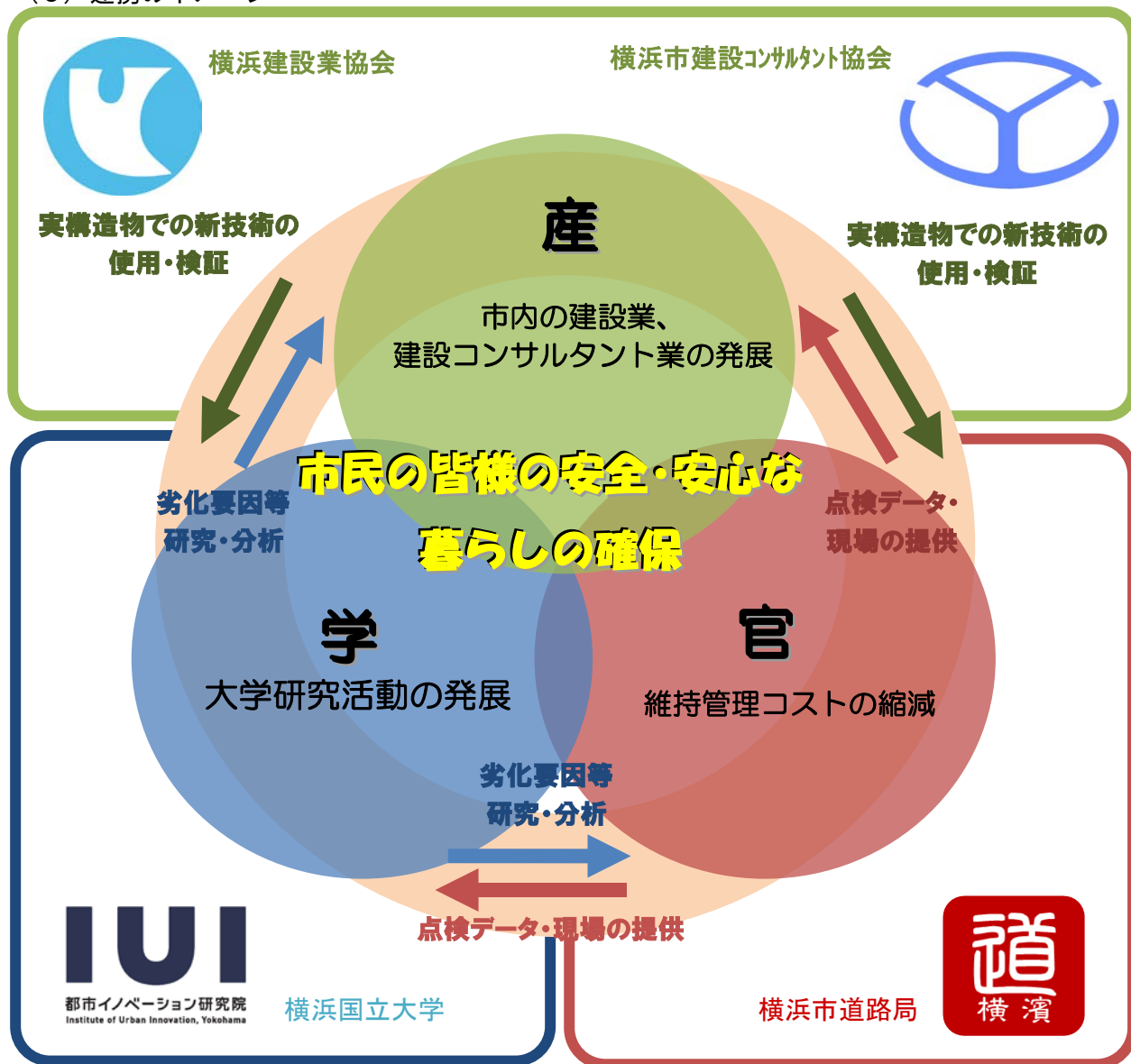
(3) 具体的な取組(予定)

- ・補修、補強に関する新技術の、実際の橋梁やトンネルでの試験施工
- ・ロボットやカメラ等の最新点検技術の、橋梁やトンネルでの使用、実用性等の検証
- ・橋梁やトンネルの地域特性、劣化要因及び補強・補修対策等の研究・検証
- ・「産」・「学」・「官」合同での勉強会や研修の実施
- ・横浜国大での講義の実施

(4) 期待している効果

- ・本市長寿命化修繕計画の精度向上
- ・定期点検や補修・補強工事での最新技術導入による、維持管理コストの縮減
- ・四者での意見交換や研究活動等への参加を通じた、人材育成及び技術力向上

(5) 連携のイメージ



3 これまでの「学」と「官」の連携

平成 26 年 12 月 22 日から、都市イノベーション研究院と道路局は協力協定を締結し、連携の取組を開始しています。今回の協定は、「産」を加えて新たなスタートを切るものです。

(1) 平成 26 年度の取組

- ・「神奈川県内の自治体における橋梁定期点検データ分析」
横浜市が実施した定期点検のデータを、横浜国大で分析しました。



実験の様子(鷗橋)

(2) 平成 27 年度の取組

- ・「計測+点検データを用いた既存橋梁の妥当な数値モデル構築法の確立と、その維持管理への応用」

横浜市が管理する鷗(かもめ)橋(中区 1963 年竣工 供用中)にて、横浜国大が振動による構造物応答の計測と既存の点検データを用いた分析を行います。

※本取組は新協定締結後も引き続き取り組みます。

お問合せ先		
道路局 橋梁課長	菊地 健次	Tel 045-671-2752